

運のよい女性になる秘訣は 好きなものに囲まれて暮らすこと

「運のよい女性」とはどんな女性？ どんなインテリアが女性の運を開いてくれるの？ 辰巳琢郎夫人・真由美さんとDr.コパの興味津々対談です。

辰巳真由美さんは、俳優・辰巳琢郎さんの奥様。お茶とお花のお免状を持ち、お部屋には花を絶やしません。小学校と幼稚園に通う二人のお子さんのお母様でもあります。

実は、辰巳さんご夫妻は1年ほど前に家を新築されたばかり。細部にもこだわった、とてもステキなお宅です。この辰巳邸設計には、Dr.コパが風水面からの指導をしています。

ステキな旦那様とステキな家に恵まれた真由美さんは、まさに「運のいい女性」そのもの。いったいどんなインテリアに囲まれて暮したら、真由美さんのように運が開けるのでしょうか。

そこで、新しいお宅を拝見しながら、Dr.コパと真由美さんの開運インテリア談義となりました。

設計は試行錯誤。でも自分の意見を主張して行なった

コパ 設計段階で真由美さんは意見をたくさん出してましたね。「家内がこう考えてますから」と辰巳さんが盛んに

上・中=客用リビング奥の引き戸を開くと和室空間が、ドアを開けておいてもまるで違和感がない。青い壁の絵が、真由美さんが辰巳さんと初めて買った思い出の絵。左=客用リビングの暖炉。ほとんど真由美さんにプランを任せていた辰巳さんが、唯一こだわったのがこの暖炉。掃除は辰巳さんがする」という条件で折り合いが合ったとか。



辰巳真由美さん

言っていた(笑)。いちばんこだわったのはどういう点でした？

真由美 やはり明るい家にしたかったんです。そしたら設計士さんは最初にL字型住居プランを持ってきた。私は欠けが気になってイヤでした。

コパ 採光を考えるとL字型にしがらうけど、太陽は移動するから案外当たるものなんです。

真由美 そうですね。実は、中庭を作るという案もあったけれど、それも私は好きになれなくて。コパ先生のアドバイス通りに欠けをなくし、今の四角い形にして本当によかったです。

コパ これだけ明るいなら大正解。このリビングは地下にあるけど、それを感もくつろいでいただけるので、気持ちもとても楽になりました。笑顔の時間が増えました。

部屋に合うと言われてもイヤなものはいや

コパ インテリアを決めるとき、気に入った家具が先にあって、そこから出発する人と、部屋の空間から出発する人がいるけど、この部屋はどちらですか？

真由美 空間が先です。そこから気に入ったものを探して行きました。実は、家具探して2週間ほどヨーロッパを回ったのに、全然気に入ったものがなかったんです。クラシックな家具が欲しいのに、イタリアなどはみんなモダン



上=リビング奥から外をのぞむ。白壁の効果で地下とは思えない明るさ。窓を縁取っているのが真由美さんご自慢のカーテン。クッションと共布。中=浴室が大理石になったためリビング全体のイメージが現在のものに変わった。多用されたガラスは自分で磨く。「好きじゃないとガラスを家に多用するのは難しいですね。下=このフラワーアレンジも真由美さんの作品。



自分の好き嫌いを優先していれば、インテリアも自然と部屋に合っていきます。

じさせないでしょ。外の壁とのバランスがよくて、夕方でも夕陽が壁に反射して奥まで明るいんですよ。

真由美 この上の部屋を「二階」と言う人が多いんです。本当はここは地下で、上は一階なんですけどね(笑)。

コパ 鏡やガラスが多いですね。

真由美 私、ガラスが好きなんです。ドアにステンドグラスを入れたのも家の

奥まで光を取り入れたかったからです。鏡は私も主人も好きなんです。広く見えるし明るくなるでしょう？

来客用と家庭用でリビングを分ける発想

コパ 一階の玄関は家族用で、中は家族の住空間ですよ。客はその奥の階段を降りて、地下の玄関からこのゴージャスな客用リビングに通されるわけだけど、玄関まで分けて空間を分離した発想はどこから？

真由美 前の家のときは、お客様がくると「片づけなさいっ！」と子供を叱らなければならなかったんです。それが辛かった。お客様に散らかった部屋を見られるのもイヤでした。それで玄関から別の空間にしたんです。おかげで子供をムダに怒らすにむし、お客様に

ばかり。結局、東京のショップで輸入物を買いました(笑)。カーテンにしても、紺とベージュのストライプで地模様が入っているのが欲しくて、日本と英国で、ほとんどすべてのサンプルを見ました。あのカーテン、実はキツチンの値段より高いんです(笑)。

コパ 気に入ったものがあるまで、とことん探すわけだね。

真由美 はい。いくら「この家具は部屋に合うから」と言われても、嫌いなものはダメ。部屋に合うかどうかよりも、自分が好きか嫌いかを優先しました。でも、不思議と好きなものは部屋にすっくり合ってくるんですよ。中には、前の家で使っていた古い家具は部屋に



Dr.コパ

合わないから捨てろと言う設計士さんもいました。そして部屋に合うカッコいい家具を買えと。でも、それはカッコいいのではなく浪費だと思っんです。今まで愛着を持って使ってきた家具も引き立つような家を作ってあげたいと思います。

コバ それはとても真由美さんらしい発想ですね。

インテリアのそれぞれに大きなこだわりがある

コバ この絵にはどんな由縁が？

真由美 スペインのJ・トレンツ・リヤドという画家の作品です。主人がとても好きな画家で、二人で最初に買った思い出の絵です。二人ともブルーが好きなんです。

コバ 本当に気に入ったものに囲まれている空間なんです。

真由美 まだまだそろえたいものはたくさんあります。



辰巳邸は風水的にいい真四角な土地に建っている。著名な作家が無名時代に下宿していた土地で、それを知った辰巳さんが「僕が買おうしかない!」と即決したという。ガラスの洋テーブルに和服の帯が敷かれ、その上に真由美さん作のフラワーアレンジメント。センスが光る。



扉の微妙な色合い、鏡のカットのしかた、家具のひとつひとつにこだわったからこそ、幸せでいられる空間ができあがるのかも…。

幸せを手に入れるにはまず自分で行動を。そして、好きなものと暮らすことです。

さんありますよ(笑)。でも、ここで光を眺めているとほっとします。

コバ この家のお披露目をしたとき、辰巳さんが「ハウスウォーミング」という言葉を使って「みんなが来て家を踏んで暖めてくれるのがいっばん」ということをおっしゃった。辰巳さんご夫婦は、訪ねてくる人達の温もりで家を育てていくんですね。

では最後に、女性の幸せはどう作ればいいのかと思いますか？

真由美 人によって幸せって違うと思いますけど、私にとつての幸せ作りは行動することでした。この家のインテリアにしても、自分からどんどん探して行って見つけましたから。もし気に入ったものが見つからなかつたら、時間をかけて、見つかるまで探すこと。そして、何事にもかわらぬ好きなものを好きなものを好きと言えぬ勇気をもつて持つていることだと思います。

コバ ありがとうございます。